



## 平成 29 年度「大学の世界展開力強化事業（インド）」 交流推進プログラムの採択について

### プログラムのポイント:

- ・ 北大がインド工科大学 3 校と連携して「持続可能な輸送システムと社会インフラ構築のための国際共同研究力育成プログラム (International Research Skills Program for Developing Sustainable Transportation System and Infrastructure: STSI プログラム)」を実施する。
- ・ 日印両国の学生が本プログラムの活動を通じてチームワーク型国際共同研究力を獲得する。
- ・ インドに進出する日本企業の参加による日印サステナブル開発コンソーシアムを構築する。

### 概要:

北海道大学（以下、「北大」）は、インド工科大学（以下、「IIT」）ボンベイ校、マドラス校、ハイデラバード校との連携事業として、平成 29 年度文部科学省補助金事業「大学の世界展開力強化事業（インド）」交流推進プログラム（タイプA）に申請し、8月8日（火）に採択されました。

平成 29 年度「大学の世界展開力強化事業（インド）」交流推進プログラム（タイプA）では、日本とインドが協力して取り組むことのできる、具体的課題の解決のための教育プログラムを構築するほか、質の保証を伴った連携・学生交流を戦略的に進めること、国際的通用性を備えた質の高い教育を実現すること、大学教育のグローバル展開力を強化することを目的としています。

平成 28 年 11 月の日印首脳会談で示された、日印連携によるインド太平洋地域の繁栄と安定における重要な取り組みの一つとして、ムンバイ・アーメダバード高速鉄道計画の着実な進展があげられます。北大が IIT3 校との連携で申請した事業は、鉄道にとどまらない陸海空の輸送システム全般の整備と、それに伴い必要となる社会インフラの分野において、チームワーク型国際共同研究力を発揮できるグローバル人材を育成することを目指しています。

さらに本プログラムにおいては、インドに進出する日本企業の参加による日印サステナブル開発コンソーシアム形成を提唱し、これらの企業との連携で、プログラム学生が実際の産学共同研究に参画する機会を設けるとともに、本プログラムの持続的な展開を目指します。

### 開始時期:

平成 29 年 8 月

### 背景・経緯：

北大は、工学分野だけでも、これまでに短期・長期にわたるインド人留学生並びにインターンシップ研修生を 30 名以上受け入れてきました。特に近年は、我が国とインド鉄道省の合意に基づく、インド鉄道省からの留学生派遣プログラムに積極的に参画し、平成 28 年度は 4 名、平成 29 年度は 5 名を修士課程学生として受け入れていきます。そのほか、インド人の教授、助教を各 1 名雇用するとともに、学術研究員も採用し、優秀なインド人スタッフと学生による国際化の促進に取り組んできました。

インドとの連携を一層促進するために、工学系部局が中心となって、IIT3 校との学術交流協定締結に合意し、今回のプログラム申請に向けての協議を進めてきました。特に IIT ハイデラバード校は JICA の支援によって整備された経緯があり、本プログラムにおけるリエゾンオフィスとしての役割を担うことで合意しています。また、東京大学が実施している世界展開力強化事業「IJEP※」等とも連携した活動を行っており、特に東京大学が設置したインドオフィスとの連携を推進しています。

北大と IIT3 校は、インドにおける社会インフラの整備において、北大が有する実学を重視した研究基盤を活用するとともに、異なる文化の融合によって、チームワーク型国際共同研究力を有するグローバル人材を育成する計画を申請しました。

※ India-Japan Industry-Academia-Government Collaborative Education Program: 日印産官学連携による技術開発と社会実装を担う人材育成プログラム

### プログラムの内容：

本事業は、インドにおける輸送システムと社会インフラ構築に関わる種々の課題について、日印の学生がチームを作り、これに取り組む際、その成果を最大化できるような能力（本提案では、これを「チームワーク型国際共同研究力」と呼ぶ）を有する人材を育成しようとするプログラムです。特に、輸送システムや社会インフラ構築の正の側面だけでなく、その環境影響や周辺住民への影響など、負の側面も包含した持続可能な開発を、日印の学生が協力して実現できるような人材を育成することを目標とします。

北大は、開学の精神である「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」「実学の重視」を具現化する人材育成を目標とし、英語力、コミュニケーション力に加えてグループワークや海外留学を組み合わせた「NITTOBE 教育システム」を実施しています。本事業においては、これを発展させて「チームワーク型国際共同研究力」を獲得するためのプログラムを展開します。

また、本事業では、インドに関連の深い企業や将来インドとの協力関係構築に興味をもつ団体・企業からフェローを募って「日印サステナブル開発コンソーシアム」を結成し、その協力を得ながら本プログラムに参加する日印の人材を育成していきます。具体的には、学生が本プログラム修了時に実施する成果報告会をフェローの参加を得て実施し、成果の評価や将来の課題について助言を得るほか、本事業期間終了後も、派遣／受入事業にかかる資金の共同出資やインターンシップによる人材交流の維持を可能にします。また、本コンソーシアムに参加する企業にとっては、本プログラムを修了したインドに強い日本人学生、日本をよく理解したインドの学生を見出す機会ともなり、本プログラムが継続して維持される機構となることが期待されます。

## お問い合わせ先

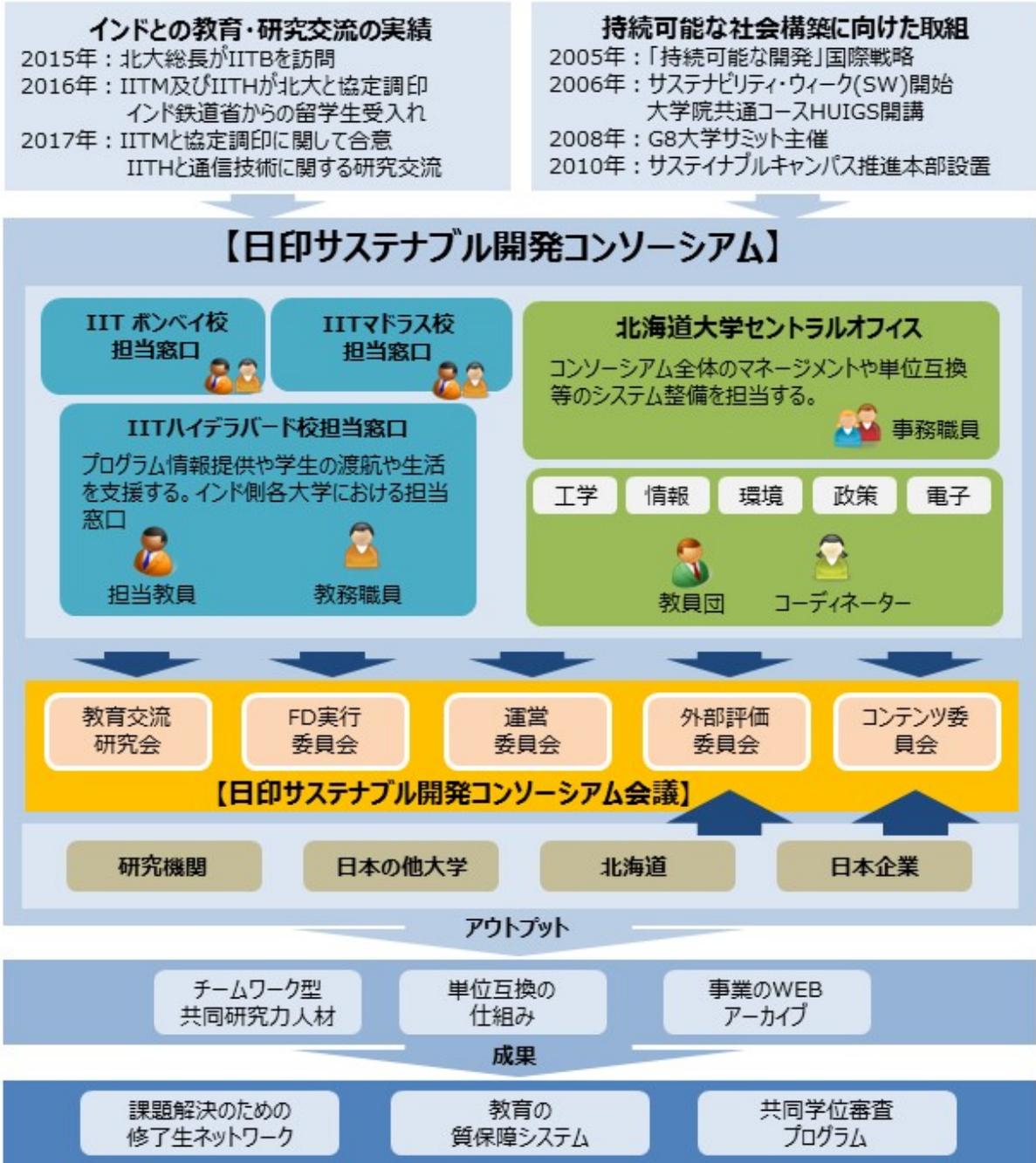
- ・ 北海道大学 工学系事務部国際企画事務室

TEL:011-706-8087/8088 FAX:011-706-8094 Email:kokusai@eng.hokudai.ac.jp

- ・ 北海道大学 国際連携機構（8月14日～16日のみ）

TEL:011-706-8013 FAX:011-706-8037 Email:tenkai@oia.hokudai.ac.jp

# <<日印チームワーク型国際共同研究力人材育成体制>>



# <<日印チームワーク型国際共同研究力育成カリキュラム>>

